

## 序言

『言語と文明』第16巻が刊行の運びとなりました。本誌は言語教育研究科の学術研究誌として2003年に刊行され、以来、研究科に属する教員、院生の研究成果発表の場となっています。本巻には、教員の研究だけではなく、博士候補生による論文、修士論文の内容を深化させた修士修了生による論文、さらに他大学で教員として活躍する本学修了生による論文も掲載されています。編集にあられた大野仁美委員長はじめ編集委員、査読委員各位に感謝申し上げます。

今年度をもって定年退職される英語教育専攻の中道嘉彦教授（英語音声学・音韻論、英語歴史言語学等を担当）にはエッセイを寄稿していただきました。中道教授には、長年にわたり、数多くの院生にきめ細やかなご指導をしていただきました。また、研究科の運営にもご協力いただき、特に研究科英語ウェブサイトの立ち上げ時には多大な貢献をしていただきました。ここに厚く御礼申し上げ、今後のますますのご健勝と研究のご発展をお祈りします。

2017年度は博士課程(前期)・修士課程の院生13名に修士の学位が授与されました。また博士課程(後期)の院生2名に文学博士の学位が授与されました。本巻にはその博士論文の要旨も掲載されています。麗澤大学学術リポジトリからは博士論文の全文がご覧いただけます。来年度は博士前期・修士課程に14名、後期課程に5名の院生を迎えることになり、ますます学際的・国際的研究が活発になると期待しております。新研究科長を迎え、より時代のニーズにあった魅力的な研究科の体制への準備も始まります。これからも創立者廣池千九郎のめざした「知徳一体」という建学の精神に基づく教育・研究活動をめざすという研究科の姿勢に変わりはありません。

おわりに、本号をもって紙媒体での『言語と文明』は終了し、来年度からはオンライン媒体のみとなります。『言語と文明』が今後も教員・学生・修了生の研究活動、および本学教員・修了生の参加する共同研究の成果発表の場として、オンラインを利用して内外の研究者に大いに活用されることを願っております。

2018年（平成30年）3月

言語教育研究科長 黒 須 里 美